

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	都市計画施策推進事業			事務事業コード	40580100
概要	府中市都市計画審議会の運営				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	58	計画的な土地利用の推進	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	昭和32年度～	見直しの裁量
根拠法令等	都市計画法、府中市都市計画審議会条例				
市関連事業	市街地整備計画作成事業				
対象	都市計画法によりその権限に属された事項及び市長の諮問に応じ都市計画に関する事項				
実施の背景	都市計画行政の円滑な運営を図るため、都市計画法の規定に基づき設置されている。				
事業目標	都市計画行政の円滑な運営を図る。				
事業内容	都市計画法によりその権限に属された事項及び市長の諮問に応じ都市計画に関する事項について、調査審議する。また、都市計画に関する事項について、関係行政機関に建議することができる。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
府中都市計画生産緑地地区の変更 (2回) 府中市立地適正化計画の策定	計画どおり事業を実施した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
府中都市計画生産緑地地区の変更 (2回)	継続して事業に取り組む。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
府中都市計画生産緑地地区の変更 (2回)	計画どおり事業を実施した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
府中都市計画生産緑地地区の変更 (2回) 府中市都市計画に関する基本的な方針の改定について 府中市都市計画都市再開発の方針の変更に伴う市の意見 多摩部19都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更に伴う市の意見	継続して事業に取り組む。

令和3年度における事業の位置付け		B	今後も本事業は法定上の手続きとして必要であることから、現状のまま継続し、大幅な見直しは必要ない。
A 重点化・拡大して継続	1 大幅な見直しは必要ない		
B 現状のまま継続	2 見直しには法令等の改正が必須	1	
	3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
	4 現状では見直しが不可能		
	C 見直して継続		
D 休止・廃止等	2 他事業との整理・統合		
	1 休止		
	2 廃止		
	3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することが なじまないため、特に指標の設 定は行わない。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	-	-	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現 状 分 析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当 初 予 算 額	1,320,000	1,260,000	1,286,000	1,259,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0
一 般 財 源	1,320,000	1,260,000	1,286,000	1,259,000	0	0
予 算 現 額	1,320,000	1,290,000	1,263,000	0	0	0
決 算 額	1,094,934	1,177,482	822,598	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0
一 般 財 源	1,094,934	1,177,482	822,598	0	0	0
執 行 率	82.9%	91.3%	65.1%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職 員 数	1.23	0.98	0.98			
職 員 人 件 費	9,454,306	7,689,271	7,853,467			
嘱 託 員 数	0	0	0			
嘱 託 員 人 件 費	0	0	0			
(間接経費)						
間 接 経 費	121,731	132,912	77,039			
総 コ ス ト	10,670,971	8,999,665	8,753,104	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>府中市都市計画審議会は、府中市計画区域内の都市計画に係る審議など、都市計画行政の円滑な運営を図るため、昭和32年に設置され、都市の健全な発展と秩序ある整備に寄与してきた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>課題は特になく、現状のままで問題ない。 府中市都市計画に関する基本的な方針（府中市都市計画マスタープラン）の見直しに関する事項について調査審議するため、府中市都市計画審議会に平成29年4月1日付けで部会を設置した。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1058001	都市計画審議会運営費	1,226,000	762,598	1,229,000
2	01	40	15	05	1072005	負担金 日本都市計画学会	30,000	30,000	30,000
3	01	40	15	05	1076200	負担金 コンパクトなまちづくり推進協議会	30,000	30,000	
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,286,000	822,598	1,259,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	市街地整備計画作成事業			事務事業コード	40580200
概要	都市計画に関する各種計画を検討し立案する。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	58	計画的な土地利用の推進	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	都市計画法、府中市地域まちづくり条例				
市関連事業	地域まちづくり事業				
対象	市全域				
実施の背景	府中市都市計画に関する基本的な方針等まちづくりの仕組みを構築し、住みよいまちづくりを実現するため				
事業目標	計画的な土地利用を推進し、地域特性を生かした住みよいまちをつくる。				
事業内容	市街地整備について、技術的、専門的手法を交えた検証及び計画管理を行う。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画の策定 都市計画マスタープランの全体構想及び地域別構想の見直し検討 木造住宅密集地域及び連担する地域におけるまちづくり協議会への運営支援 	計画的な土地利用を推進し、地域特性を生かした住みよいまちをつくるため、都市計画マスタープランの改定に向けた検討を引き続き行うとともに、持続可能なまちづくりを実現するため、立地適正化計画を策定した。また、住みよいまちを実現するため、北山町・西原町地区まちづくり協議会の運営を支援した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランの全体構想及び地域別構想の見直し検討・改定骨子作成 木造住宅密集地域及び連担する地域におけるまちづくり協議会への運営支援 	計画的な土地利用を推進し、地域特性を生かした住みよいまちをつくるため、都市計画マスタープランの改定に向けた検討を引き続き行い、改定骨子を作成する。また、住みよいまちを実現するため、北山町・西原町地区のまちづくり協議会の運営を支援する。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランの全体構想及び地域別構想の見直し検討・改定骨子作成 木造住宅密集地域及び連担する地域におけるまちづくり協議会への運営支援 	計画的な土地利用を推進し、地域特性を生かした住みよいまちをつくるため、都市計画マスタープランの改定に向けた検討を引き続き行い、改定骨子を作成する。また、住みよいまちを実現するため、北山町・西原町地区のまちづくり協議会の運営を支援した。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランの全体構想及び地域別構想の見直し検討・改定骨子作成 西原町、北山町など木造住宅密集地域における地区計画策定に向けたまちづくり協議会への運営支援 新町、栄町地区など木造住宅密集地域における地区計画策定に向けた現況調査や課題整理 	計画的な土地利用を推進し、地域特性を生かした住みよいまちをつくるため、都市計画マスタープランの改定に向けた検討を引き続き行い、計画を改定する。また、住みよいまちを実現するため、北山町・西原町地区のまちづくり協議会の運営を支援する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	都市計画マスタープランについては引き続き改定作業を継続し、令和3年度中に見直しを目指す。木造住宅密集地域における地区計画策定に向けた作業については今後も引き続き継続する。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
地区計画の決定地域の合計 面積	61.5	計画 当初値	112	113	114	115	近年は決定実績がないが、現在地区計画の策定検討を進めている地区があるため、目標達成に向けて進展させていく。
		計画 補正值	-	110	111	112	
	ha	実績	109.3	109.3	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	-
		計画 補正值	-	-	-	-	-
	-	実績	-	-	-	-	-

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	43,020,000	47,134,000	25,150,000	28,794,000	0	0
国庫支出金	10,222,000	9,229,000	0	0	0	0
都支出金	5,183,000	12,119,000	5,049,000	6,616,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	13,000,000	3,100,000	0	0
一般財源	27,615,000	25,786,000	7,101,000	19,078,000	0	0
予算現額	42,020,000	47,134,000	25,150,000	0	0	0
決算額	41,721,112	46,365,695	24,996,693	0	0	0
国庫支出金	4,600,000	8,305,000	0	0	0	0
都支出金	12,410,000	12,339,000	5,142,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	13,000,000	0	0	0
一般財源	24,711,112	25,721,695	6,854,693	0	0	0
執行率	99.3%	98.4%	99.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.69	3.54	3.30			
職員人件費	28,362,919	27,873,607	26,505,452			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	365,201	481,814	260,026			
総コスト	70,449,232	74,721,116	51,762,171	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画GISシステム整備の推進 ・府中市都市計画に関する基本的な方針の実績評価及びアドバイザー会議による本方針の改定に向けた意見・提案の取りまとめ ・地域地区の随時見直し ・都市計画基礎調査の実施等 ・立地適正化計画の策定
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
見直し後の都市計画マスタープランで示された課題に対応するための各施策を確実に展開していく必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1062000	市街地整備計画調査費	25,150,000	24,996,693	28,794,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							25,150,000	24,996,693	28,794,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	地域まちづくり事業			事務事業コード	40580300
概要	計画的なまちづくりを誘導するとともに市民主体のまちづくり活動を支援する。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	58	計画的な土地利用の推進	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成16年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市地域まちづくり条例				
市関連事業	市街地整備計画作成事業				
対象	市民、事業者				
実施の背景	地域の特性を踏まえた住みよいまちづくりの実現に向け、地域の課題や緊急性を踏まえた取組ができるよう、府中市地域まちづくり条例に位置付け、施策の展開を図っている。				
事業目標	市、市民、事業者の協働により、「府中市都市計画に関する基本的な方針」に即し、かつ、地域特性を踏まえた住みよいまちづくりを推進する。				
事業内容	地域の特性や課題の緊急性を踏まえ、将来、地区計画や景観協定等を活用したまちの詳細ルールづくりを進める必要がある地区をまちづくり誘導地区に指定し、誘導計画を策定することで計画的なまちづくりを誘導する。また、市民の主体的な活動を支援するためまちづくりの専門家を派遣する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
・市民が主体となって設立したまちづくり協議会等への支援	・市民が主体的となったまちづくり活動が円滑に展開された。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
・まちづくり専門家の派遣及びまちづくり活動への支援	・市民が主体的にまちづくりを展開できるよう、まちづくり活動への支援を継続して行う。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
・市民が主体的となって設立したまちづくり協議会等への支援	・市民が主体的となったまちづくり活動が円滑に展開された。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
・市民が主体的となって設立したまちづくり協議会等への支援	・市民が主体的にまちづくりを展開できるよう、まちづくり活動への支援を継続して行う。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	地域の実情を踏まえて、まちづくり活動を行う団体への支援を継続して行う。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
まちづくり専門家派遣団体 累積数	1	計画 当初値	2	2	2	3	概ね当初の予定通りに進められて いる。	
		計画 補正值	-	2	-	-		令和 3年度
	団体	実績	2	0	-	-		-
まちづくり誘導地区指定累 積数	6	計画 当初値	6	7	7	8		概ね当初の予定通りに進められて いる。
		計画 補正值	-	6	7	7		
	地区	実績	6	6	-	-		

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	740,000	718,000	687,000	649,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	740,000	718,000	687,000	649,000	0	0
予算現額	752,000	718,000	710,000	0	0	0
決算額	688,360	685,861	684,128	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	688,360	685,861	684,128	0	0	0
執行率	91.5%	95.5%	96.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.49	0.61	0.61			
職員人件費	3,781,723	4,805,794	4,908,417			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	48,692	83,070	48,149			
総コスト	4,518,775	5,574,725	5,640,694	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり誘導地区の指定 6地区 ・まちづくり専門家の派遣 2団体
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>まちづくりについて、より市民が主体的に行うため、支援事業等のPRを行っていく必要がある。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1065000	地域まちづくり事業費	687,000	684,128	649,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							687,000	684,128	649,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	まちづくり活動助成事業			事務事業コード	40580400
概要	地区計画原案の作成などを行う「まちづくり活動団体」に対し、助成を行う。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	58	計画的な土地利用の推進	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成21年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市地域まちづくり条例				
市関連事業	地域まちづくり事業				
対象	市民				
実施の背景	市民が地区計画原案等を作成するにあたり、その活動支援を行うため。				
事業目標	地域の特性を生かした住みよいまちの実現に向け、自らの総意工夫による市民の主体的なまちづくり活動のさらなる推進を図る。				
事業内容	市内において地区計画原案の作成などを行う「まちづくり活動団体」に対し、活動経費の4/5の助成を行う。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
まちづくり活動を行っている団体に、本事業のPRを行った。	本事業のPR活動を継続して行っていたが、助成金の申請を行う団体がいなかった。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
まちづくり活動を行っている団体に、本事業のPRを行う。	まちづくりに寄与する活動に対しては、積極的に本事業の活用を周知していく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
まちづくり活動を行っている団体に、本事業のPRを行った。	本事業のPR活動を継続して行っていたが、助成金の申請を行う団体がいなかった。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
まちづくり活動を行っている団体に、本事業のPRを行う。	まちづくりに寄与する活動に対しては、積極的に本事業の活用を周知していく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	まちづくりは一朝一夕には完結しないものであるため、長期的に事業を継続することが重要と考える。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
			補正值	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
			補正值	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	20,000	19,000	18,000	18,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	20,000	19,000	18,000	18,000	0	0
予算現額	20,000	19,000	18,000	0	0	0
決算額	0	0	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	0	0	0	0
執行率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.12	0.12	0.12			
職員人件費	945,431	961,159	981,683			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	12,173	16,614	9,626			
総コスト	957,604	977,773	991,309	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
まちづくり活動団体への助成 2団体
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
本事業を周知しまちづくり活動を推進するため、PR活動を強化する必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1076500	補助金 まちづくり活動助成事業費	18,000	0	18,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							18,000		18,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	建築紛争調停委員会運営事業			事務事業コード	40590100
概要	府中市建築紛争調停委員会の運営				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	59	良好な開発事業の誘導	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業		事業開始年度	～
見直しの裁量	市に事業見直しの裁量あり				
根拠法令等	府中市中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例				
市関連事業	開発誘導事業 土地利用調整審査会運営事業				
対象	府中市中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例第8条の規定により、紛争の調整の申出のある市民等				
実施の背景	中高層建築物の建築にあたって生じる近隣紛争を調整し円満に解決するため。				
事業目標	建築紛争の円満な解決を図り、良好な相隣関係の形成に寄与する。				
事業内容	条例に基づく斡旋等の申出があった際に建築紛争調停委員会を開催し、近隣紛争の解決を図る。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
平成30年度について紛争調停委員会に関する案件無し。	平成30年度について紛争調停委員会に関する案件無し	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
あっせん等の申出があった際は速やかに近隣住民関係の紛争の解決を図る。	あっせん等の申出があった際は速やかに近隣住民関係の紛争の解決を図る。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
建築紛争調停委員会に関する案件無し。	建築紛争調停委員会に関する案件無し。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
あっせん等の申出があった際は、速やかに近隣住民関係の紛争の解決を図る。	あっせん等の申出があった際は、速やかに近隣住民関係の紛争の解決を図る。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	紛争が生じないよう事前協議の段階で、行政として事業者への適切な指導を行い、紛争が生じた場合には速やかな解決に向け、調整を図る必要があるため、継続する必要がある。
B 現状のまま継続		
1 大幅な見直しは必要ない		
2 見直しには法令等の改正が必須		
3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1	
1 見直し・縮小		
2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等		
1 休止		
2 廃止		
3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移					目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがなされないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	129,000	128,000	128,000	71,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	129,000	128,000	128,000	71,000	0	0
予算現額	129,000	128,000	128,000	0	0	0
決算額	67,615	12,292	71,361	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	67,615	12,292	71,361	0	0	0
執行率	52.4%	9.6%	55.8%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.12	0.12	0.12			
職員人件費	945,431	961,159	981,683			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	12,173	16,614	9,626			
総コスト	1,025,219	990,065	1,062,670	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>府中市中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例に基づく紛争調整の申出があった場合、本委員会を適宜開催し、建築紛争の円満な解決を図り、良好な相隣関係の形成を図ってきた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>引き続き、府中市中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例に基づく紛争調整の申出がないように、事前協議の段階で行政が事業者に対し適切な指導を行う。あつせん、調停の申出があった際には、速やかに本委員会を適宜開催し、建築紛争の円満な解決を図り、良好な相隣関係の形成を図る。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	05	10	0980500	建築紛争調停委員会運営費	128,000	71,361	71,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							128,000	71,361	71,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	土地利用景観調整審査会運営事業			事務事業コード	40590200
概要	府中市土地利用調整審査会の運営				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	59	良好な開発事業の誘導	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成15年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市地域まちづくり条例				
市関連事業	開発誘導事業 建築紛争調停委員会運営事業				
対象	府中市地域まちづくり条例第33条第2項の規定に基づき、市長が諮問した案件				
実施の背景	都市計画マスタープランの実現のため地域の特性を生かした住みよいまちづくりの実現				
事業目標	市長の諮問事項に対し、市長の附属機関として専門的な見地から意見を聞くことにより、都市計画マスタープラン等に基づいた良好なまちづくりの形成を推進する。				
事業内容	市長の諮問に対し、土地利用調整審査会を開催する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
平成30年度 府中市土地利用景観調整審査会 5回開催	大規模開発事業を計画の段階で事前に縦覧することにより、幅広く市民に周知することと、審査会では、住みよいまちづくりのため良好な土地利用及び景観を審査した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
引き続き、大規模な土地利用構想及び景観構想について、良好な土地利用及び景観を誘導するために審査をする。	府中市土地利用景観調整審査会で、良好な土地利用及び景観を審査する。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
令和元年度 府中市土地利用景観調整審査会 4回開催	大規模開発事業を計画の段階で事前に縦覧することにより、幅広く市民に周知することと、審査会では、住みよいまちづくりのため良好な土地利用及び景観となるよう審査した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
引き続き、大規模な土地利用構想及び景観構想について、良好な土地利用及び景観を誘導するために審査をする。	府中市土地利用景観調整審査会で、良好な土地利用及び景観を審査する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	引き続き、良好な土地利用及び景観を誘導していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがないため、特に指標の設定は行わない。
			補正值	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
			補正值	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	1,567,000	1,381,000	1,296,000	1,293,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,567,000	1,381,000	1,296,000	1,293,000	0	0
予算現額	1,567,000	1,381,000	1,296,000	0	0	0
決算額	572,279	652,846	503,592	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	572,279	652,846	503,592	0	0	0
執行率	36.5%	47.3%	38.9%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.11	1.10	1.10			
職員人件費	8,508,876	8,650,430	8,835,151			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	109,558	149,527	86,669			
総コスト	9,190,713	9,452,803	9,425,412	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
大規模土地利用構想及び景観構想において、良好な土地利用及び景観の誘導を審査している。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
引き継ぎ、大規模土地利用構想及び景観構想において、市民や審査会の意見を反映させ、良好な土地利用及び景観を誘導するために審査をする。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1058005	土地利用景観調整審査会運営費	1,296,000	503,592	1,293,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,296,000	503,592	1,293,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	土地取引事務			事務事業コード	40590300
概要	国土利用計画法に基づく土地売買等の届出に伴う経由事務				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	59	良好な開発事業の誘導	事業類型	法定事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	国土利用計画法				
市関連事業					
対象	国土利用計画法で規定する一定規模以上の土地取引				
実施の背景	土地を利用する計画を行うものに対し、土地取引という早期の段階から計画に従った適正な土地利用を誘導することで快適な生活環境や暮らしやすい地域づくりを推進するため、国土利用計画法に位置づけられた。				
事業目標	大規模な土地取引が行われた後には、大規模なマンションなどに土地利用が図られる場合が多いため、周辺地域に与える影響を軽減するため、法で規定する届出に対し、当該地の土地利用については市の計画に即するよう誘導する。				
事業内容	法で規定する届出に対し、本市で受け付けをする。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
届出件数 4件	法定要件に係る届出について適正に処理を行った。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
国土利用計画法に規定する一定規模以上の土地取引の届出に対し、審査し受理する。	法定要件に係る届出について適正に処理を行い、東京都に送付する。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
届出件数 8件	法定要件に係る届出について適正に処理を行った。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
国土利用計画法に規定する一定規模以上の土地取引の届出に対し、審査し受理する。	法定要件に係る届出について適正に処理を行い、東京都に送付する。

令和3年度における事業の位置付け			
A 重点化・拡大して継続	B	国土利用計画法で規定する一定規模以上の土地取引に関する経由事務であり、法定要件に係る届出について、適正に処理を行う義務がある。	
B 現状のまま継続			
C 見直して継続			
D 休止・廃止等			
	1		
	2		
	3		
	1		
	2		
	3		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することがなされないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績		-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	95,000	98,000	98,000	98,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	55,000	65,000	65,000	53,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	40,000	33,000	33,000	45,000	0	0
予算現額	95,000	98,000	98,000	0	0	0
決算額	86,724	97,095	97,591	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	57,000	47,000	48,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	29,724	50,095	49,591	0	0	0
執行率	91.3%	99.1%	99.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.37	0.37	0.37			
職員人件費	2,836,292	2,883,477	2,945,050			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	36,519	49,842	28,889			
総コスト	2,959,535	3,030,414	3,071,530	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
国土利用計画法に基づき、一定規模以上の土地取引に際し、届出を受け付け、東京都へ送付する。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
引き続き届出に伴う迅速な事務処理に努める。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1061000	土地取引規制事務費	98,000	97,591	98,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							98,000	97,591	98,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	開発誘導事業			事務事業コード	40590400
概要	土地利用方針に基づいた良好な開発事業へと誘導する。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	59	良好な開発事業の誘導	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成15年度～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市地域まちづくり条例				
市関連事業	土地利用調整審査会運営事業 建築紛争調停委員会運営事業				
対象	地域まちづくり条例第15条に規定する大規模土地取引行為及び同条例23条に規定する土地利用構想の届出があったものなど。				
実施の背景	府中市地域まちづくり条例に基づき、地域特性を踏まえた開発事業への誘導を行い良好なまちづくりを推進する。				
事業目標	大規模土地取引の動向を事前に把握し、土地利用方針に基づいた良好な開発事業へ誘導し、市・市民・事業者の協働により住みよいまちづくりを実現する。				
事業内容	届出があった開発事業に対し、良好なまちづくりの形成の観点から検討及び調査を実施する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
大規模な土地に対する取引行為や開発事業に対し、土地利用方針に基づいた良好な開発事業となるように協議・指導を行った。 大規模土地取引 2件 大規模開発事業 1件	土地利用方針に基づいた良好な開発事業への誘導を行った。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
大規模な土地に対する取引行為や開発事業に対し、土地利用方針に基づいた良好な開発事業となるように協議・指導を行う。	土地利用方針に基づいた良好な開発事業への誘導がなされ、土地利用や景観の周辺環境への配慮なども行う。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
大規模な土地に対する取引行為や開発事業に対し、土地利用方針に基づいた良好な開発事業となるように協議・指導を行った。 大規模土地取引 1件 大規模開発事業 2件	土地利用方針に基づいた良好な開発事業への誘導を行った。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
大規模な土地に対する取引行為や開発事業に対し、土地利用方針に基づいた良好な開発事業となるように協議・指導を行う。	土地利用方針に基づいた良好な開発事業への誘導がなされ、土地利用や景観の周辺環境への配慮なども行う。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	引き続き、開発事業者に対し、土地利用方針に基づいた計画的な開発事業への誘導を行う。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
開発事業と併せて地区計画等を決定した累計	14	計画値	当初値	27	28	29	30	目標値を概ね達成したが、今後も開発事業と合わせた地区計画等の導入地区を拡大していく。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
	件	実績	29	29	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
	-	実績	-	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	2,758,000	2,656,000	2,272,000	95,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,758,000	2,656,000	2,272,000	95,000	0	0
予算現額	2,758,000	2,626,000	2,272,000	0	0	0
決算額	2,671,002	2,545,979	2,174,722	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,671,002	2,545,979	2,174,722	0	0	0
執行率	96.8%	97.0%	95.7%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	2.46	2.69	2.69			
職員人件費	18,908,613	21,145,495	21,597,035			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	243,463	365,510	211,859			
総コスト	21,823,078	24,056,984	23,983,616	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果	平成15年度から令和元年度まで、大規模土地取引 55件 大規模開発事業 49件
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）	引き続き、開発事業者に対し、土地利用方針に基づいた計画的な開発事業への誘導を行う。

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1065050	大規模開発誘導事業費	2,272,000	2,174,722	95,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							2,272,000	2,174,722	95,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	建築物耐震化促進事業			事務事業コード	40600100
概要	耐震化に向けた普及啓発活動や耐震化に係る費用助成により、建築物等の耐震化を促進する。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 建築指導課
	施策	60	震災に対応した建築物の誘導	事業類型	任意事業
	事業種別	重点プロジェクト	事業開始年度	平成17年度～	見直しの裁量
根拠法令等	建築物の耐震改修の促進に関する法律				
市関連事業	府中市耐震改修促進計画				
対象	昭和56年5月31日以前の旧耐震基準で建築された建築物等				
実施の背景	大規模地震が想定される中、人的・経済的被害を軽減するため、旧耐震基準の建築物の耐震化が急務であり、耐震改修促進法や国・都の方針のもと、建築物等の耐震化を計画的に促進し、災害に強いまちづくりを進める必要がある。				
事業目標	建築物等の耐震化を促進することにより、建築物等の倒壊から市民の生命・財産を守るとともに、避難、救急消火活動、緊急物資の輸送及び復旧復興活動等に重要な役割を担う緊急輸送道路の機能を確保することで、災害に強いまちづくりを推進する。				
事業内容	府中市耐震改修促進計画に基づき、イベントでのPR活動、耐震相談会の開催、耐震啓発パンフレットの作成・配布、過去の耐震助成利用者へのフォローアップ等を行い、建築物等の耐震化の必要性を広く市民に周知するほか、木造住宅耐震アドバイザー派遣事業により旧耐震基準の木造住宅に建築士を無料で派遣し、簡易耐震診断・耐震化に係る相談・情報提供等を行い所有者の耐震化への取り組みを強く促すなど、耐震普及啓発活動を実施する。旧耐震基準の木造住宅等で耐震性が不足しているものに対しては、耐震診断・耐震改修・耐震シェルター等設置・耐震除却に要する費用の一部を助成するとともに、建築物等の倒壊による道路閉塞を防ぐために特に重要な緊急輸送道路の沿道建築物の耐震診断・補強設計・耐震改修等に係る費用の一部を助成することで、所有者の耐震化に係る費用負担の軽減を図り、建築物の耐震化を促進する。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽旧耐震木造戸建て住宅への各戸訪問 (2,945件) の実施 ▽木造住宅耐震アドバイザーの派遣 (30件) ▽自治会・町会を対象とした地域単位での普及啓発 (3件) ▽特定緊急輸送道路沿道建築物の所有者のうち、耐震改修を実施していない全所有者に個別訪問を実施▽イベント (福祉まつり及び総合防災訓練) での普及啓発及び耐震相談ブースの出展▽耐震相談会の実施2回 (計4日間)	耐震化率の目標値 (住宅95%) に向け、住宅については、順調に推移してきている。 また、特定緊急輸送道路沿道建築物については、全ての耐震診断は実施できたものの、補強設計及び耐震改修に向け、建物所有者への個別訪問など、更なる普及啓発が必要である。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
▽旧耐震木造戸建て住宅への各戸訪問 (約3,000件) の実施▽木造住宅耐震アドバイザーの派遣▽自治会・町会を対象とした地域単位での普及啓発▽特定緊急輸送道路沿道建築物の所有者のうち、耐震改修を実施していない全所有者に個別訪問を実施▽イベント (福祉まつり及び総合防災訓練) での普及啓発及び耐震相談ブースの出展▽耐震相談会の実施2回 (計4日間)	府中市耐震改修促進計画に定めた耐震化率の目標達成に向け、木造住宅の耐震化については、引き続き様々な普及啓発活動の実施、相談体制及び耐震診断・耐震改修等の助成制度を充実させる。 また、特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化については、耐震性を満たしていない建築物の所有者に対して、戸別訪問による懸案事項の把握を行い、補強設計、耐震改修の実施を働きかけていく。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽旧耐震木造戸建て住宅への各戸訪問 (2,806件) の実施▽木造住宅耐震アドバイザーの派遣 (16件) ▽自治会・町会を対象とした地域単位での普及啓発 (1件) ▽特定緊急輸送道路沿道建築物の所有者のうち、耐震改修を実施していない所有者に個別訪問を実施▽イベント (福祉まつり及び総合防災訓練) での普及啓発及び耐震相談ブースの出展▽耐震相談会の実施2回 (計4日間) ▽新規事業として、7月よりブロック塀等安全対策事業を開始	耐震化率の目標値 (住宅95%) に向け、住宅については、順調に推移してきている。 また、特定緊急輸送道路沿道建築物については、対象建築物の耐震診断は全て実施済みであるが、補強設計及び耐震改修など耐震化を進めるために、建物所有者への個別訪問などさらなる普及啓発に努めていく必要がある。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
▽旧耐震木造戸建て住宅への各戸訪問の実施▽木造住宅耐震アドバイザーの派遣▽自治会・町会を対象とした地域単位での普及啓発▽特定緊急輸送道路沿道建築物の所有者のうち、耐震改修を実施していない所有者に個別訪問を実施▽イベントでの普及啓発及び耐震相談ブースの出展▽耐震相談会の実施▽耐震改修促進計画の改定	府中市耐震改修促進計画に定めた耐震化率の目標達成に向け、木造住宅の耐震化については、様々な普及啓発活動の実施、相談体制の充実及び耐震診断・耐震改修等の助成件数の増加を図る。また、耐震性を満たしていない特定緊急輸送道路沿道建築物の所有者に対して、個別訪問による懸案事項の把握を行い、補強設計、耐震改修の実施を働きかけていく。府中市耐震改修促進計画については、関係法令等の内容と整合を図りながら、また、都の耐震改修促進計画の改定内容を踏まえて改定する。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	想定される大規模地震に備え、市内建築物の耐震化を促進するため、建築物所有者への普及啓発及び耐震改修等の助成を継続する。また、府中市耐震改修促進計画に定めた耐震化の目標値を達成できるよう、一般緊急輸送道路沿道建築物の耐震化に係る助成制度などの検討を進める。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
住宅耐震化率	85.9	計画 当初値	-	-	-	-	96 令和 3年度	住宅耐震化率については、96%の目標値に向けて順調に推移している。特定緊急輸送道路沿道建築物については、目標値の達成に向けて、建物所有者に対し、耐震化を強く働きかけていく必要がある。
		計画 補正值	-	-	-	-		
	%	実績	92.6	93.2	-	-	-	
特定緊急輸送道路沿道建築物耐震改修等実施数累計	3	計画 当初値	16	19	21	24	24 令和 3年度	
		計画 補正值	-	-	-	-		
	棟	実績	18	19	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	123,938,000	143,019,000	107,162,000	96,075,000	0	0
国庫支出金	54,019,000	61,102,000	44,383,000	41,901,000	0	0
都支出金	29,545,000	46,836,000	33,461,000	26,002,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	1,100,000	0	0
一般財源	40,374,000	35,081,000	29,318,000	27,072,000	0	0
予算現額	106,410,000	105,667,000	68,046,000	0	0	0
決算額	93,438,803	103,938,288	56,734,998	0	0	0
国庫支出金	40,334,000	47,657,000	25,682,000	0	0	0
都支出金	18,872,000	32,719,000	9,746,000	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	34,232,803	23,562,288	21,306,998	0	0	0
執行率	87.8%	98.4%	83.4%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	3.15	3.15	4.15			
職員人件費	24,197,116	24,771,685	33,332,613			
嘱託員数	0	0	0			
嘱託員人件費	0	0	0			
(間接経費)						
間接経費	237,661	204,959	225,488			
総コスト	117,873,580	128,914,932	90,293,099	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>震災から市民の生命や財産を守り、災害に強いまちづくりを進めるために、耐震相談会の実施や福祉まつりなど市内イベント時における啓発ブースの設置、無料で建築士がアドバイザーとして訪問し、簡易的な耐震診断を行う耐震アドバイザー派遣事業、自治会・町会を対象として市職員が住宅の耐震化の必要性について説明に何う住宅耐震地域啓発隊による普及啓発活動などの他に、平成29年度より旧耐震基準の木造の戸建て住宅全てを対象に建築士による各戸訪問を実施し、耐震化の重要性や市の行っている耐震化支援制度を説明することにより耐震化に向けた取組の実施を強く促している。また、震災時に消火・緊急救命活動の経路や救援物資の輸送路となる主要道路が、建築物の倒壊で閉塞されることを防ぐことを目的に、特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震化を促進するため、耐震診断等の費用の助成を行った。さらに、令和元年度より避難路がブロック塀等の倒壊により閉塞されることを防ぐため、ブロック塀等の除却・建替に対する助成を開始した。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>国及び都が掲げる住宅の耐震化の目標値（96%）の達成へ向け、耐震化をさらに促進するため、耐震化に関する情報提供や耐震化の必要性などを広く周知するとともに、市民が積極的に耐震化に取り組めるよう、より効果的な相談体制や助成制度を構築し、耐震化率の増加を図る。特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化については、耐震改修促進計画の目標値である令和7年度での耐震化率100%達成のため、耐震性を満たしていない建築物の所有者に対して、助成制度を積極的に案内し、補強設計、耐震改修の実施を強く働きかけていく。また、一般緊急輸送道路沿道建築物の耐震化に係る助成制度などの検討を進める。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	10	05	05	0071900	負担金 職員研修費			15,000
2	01	40	05	10	0985000	耐震改修促進事業費	10,824,000	10,230,000	19,305,000
3	01	40	05	10	0985250	木造住宅耐震アドバイザー派遣事業費	1,135,000	518,998	1,140,000
4	01	40	05	10	0988600	補助金 特定緊急輸送道路沿道建築物補強設計費	5,436,000	0	7,140,000
5	01	40	05	10	0988700	補助金 特定緊急輸送道路沿道建築物耐震改修費	25,667,000	12,365,000	
6	01	40	05	10	0988800	補助金 ブロック塀等改修費	34,500,000	16,541,000	36,175,000
7	01	40	05	10	0988900	ブロック塀等安全対策事業費			3,800,000
8	01	40	20	05	1144000	補助金 木造住宅耐震診断費	4,200,000	3,480,000	4,200,000
9	01	40	20	05	1145000	補助金 木造住宅耐震改修費	17,900,000	6,600,000	16,800,000
10	01	40	20	05	1147000	補助金 木造住宅耐震診断後除却費	7,500,000	7,000,000	7,500,000
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							107,162,000	56,734,998	96,075,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	特定行政庁所管事業			事務事業コード	40610100
概要	災害に強いまちづくりを推進するため建築物の安全性・安心性を確保し、適正な建築行為の推進に努める。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 建築指導課
	施策	61	質の高い建築物の確保	事業類型	法定事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成7年度～	見直しの裁量
根拠法令等	建築基準法、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、その他の関係法令				
市関連事業	都市計画マスタープラン				
対象	市内の建築物、工作物等				
実施の背景	災害に強いまちづくりを一層推進することが急務となっており、建築物の安全性・安心性を確保する必要がある。				
事業目標	質の高い建築物を確保するため、適正な建築行為を推進していく。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・建築審査会を開催し、建築基準法に基づく同意案件や審査請求等を付議する。 ・違反建築の防止と完了検査受検率の向上を図るために、現場パトロールの実施やハガキ、チラシ等により建築主及び工事施工者に対し周知する。 ・特定建築物等の定期調査・検査報告の未報告者に対する督促や要是正事項の改善指導を行う。 ・民間指定確認検査機関に対し、確認検査の適正な実施のために必要な措置を指示するとともに、当該機関との協議会等を通じて、情報交換の強化や連携を図る。 ・資源の有効な利用の確保及び廃棄物の適正な処理を進めるため、建設のリサイクルを推進していく。 				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>▽確認審査報告等における適正かつ円滑な事務手続のため、指定確認検査機関と連絡協議会を開催し、意見交換を行った。</p> <p>▽完了検査率の向上を図るため、完了検査予定日を過ぎている建築物については、現場に出向くなどして建築主に受検を促すよう指導した。</p> <p>▽特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されない建築物の所有者等に対する指導を積極的に行った。</p>	<p>▽建築確認及び検査業務にあたっては、民間指定確認検査機関に対し、特定行政庁として取組むべき指導監督に関する業務を推進した。</p> <p>また、既存建築物の適切な維持保全の確保にあたっては、特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されていない建築物の所有者等に対しては、督促を継続し改善を促した。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<p>▽確認審査業務等における適正かつ円滑な事務手続のため、指定確認検査機関と連絡協議会を開催し、意見交換を行う。</p> <p>▽完了検査率の向上を図るため、完了検査予定日を過ぎている建築物については、現場に出向くなどして建築主に受検を促すよう指導する。</p> <p>▽特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されない建築物の所有者等に対する指導を積極的に行う。</p>	<p>▽建築確認及び検査業務にあたっては、民間指定確認検査機関に対し、特定行政庁として取組むべき指導監督に関する業務を推進する。</p> <p>また、既存建築物の適切な維持保全の確保にあたっては、特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されていない建築物の所有者等に対しては、督促を継続する。</p>

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<p>▽確認審査業務等における適正かつ円滑な事務手続のため、指定確認検査機関と連絡協議会を開催し、意見交換を行った。</p> <p>▽完了検査率の向上を図るため、完了検査予定日を過ぎている建築物については、現場に出向くなどして建築主に受検を促すよう指導した。</p> <p>▽特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されない建築物の所有者等に対する指導を積極的に行った。</p>	<p>▽建築確認及び検査業務にあたっては、民間指定確認検査機関に対し、特定行政庁として取組むべき指導監督に関する業務を推進した。</p> <p>また、既存建築物の適切な維持保全の確保にあたっては、特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されていない建築物の所有者等に対しては、督促を継続し改善を促した。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
<p>▽確認審査業務等における適正かつ円滑な事務手続のため、指定確認検査機関と連絡協議会を開催し、意見交換を行う。</p> <p>▽完了検査率の向上を図るため、完了検査予定日を過ぎている建築物については、現場に出向くなどして建築主に受検を促すよう指導する。</p> <p>▽特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されない建築物の所有者等に対する指導を積極的に行う。</p>	<p>▽建築確認及び検査業務にあたっては、民間指定確認検査機関に対し、特定行政庁として取組むべき指導監督に関する業務を推進する。</p> <p>また、既存建築物の適切な維持保全の確保にあたっては、特殊建築物等の定期報告に係る未報告者及び要是正事項が改善されていない建築物の所有者等に対しては、督促を継続する。</p>

令和3年度における事業の位置付け		連絡協議会の開催、完了検査率向上のための指導及び定期報告に係る是正指導等について、これらの取組については、継続して行う必要があり、大幅な見直しは行わない。	
A 重点化・拡大して継続	B		
B 現状のまま継続			1 大幅な見直しは必要ない
			2 見直しには法令等の改正が必須
			3 見直しの必要性はあるが時期尚早
	4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1		
		1 見直し・縮小	
		2 他事業との整理・統合	
D 休止・廃止等			
		1 休止	
		2 廃止	
		3 完了	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
検査済証交付率	98	計画 当初値	98	99	99	100	建築確認済の建築物で検査済証の 交付を受けた件数であるが、現在 工事中の建築物もあるため、経過 途中の数値となっている。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	%	実績	100	82.4	-	-	
-	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	1
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	1,117,000	1,112,000	1,077,000	1,177,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	281,000	276,000	309,000	265,000	0	0
一般財源	836,000	836,000	768,000	912,000	0	0
予算現額	1,115,000	1,148,000	1,148,000	0	0	0
決算額	885,316	1,136,835	1,081,614	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	885,316	1,088,835	0	0	0	0
一般財源	0	48,000	1,081,614	0	0	0
執行率	79.4%	99.0%	94.2%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	4.75	5.75	5.75			
職員人件費	36,487,714	45,218,155	46,183,741			
嘱託員数	0.5	1	1			
嘱託員人件費	1,560,200	3,125,886	3,090,923			
(間接経費)						
間接経費	396,105	439,201	366,760			
総コスト	39,329,335	49,920,077	50,723,038	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
より安全性の高い建築物の確保、災害に強いまちづくりを推進し、検査済証の交付率の向上や定期報告の報告率の向上を目指すため啓発活動や指導を強化してきた。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
災害に強いまちづくりを推進することが急務であり、建築物の安全性・安心性を確保し、適正な建築行為を促進するために、民間指定確認検査機関や他の特定行政庁等との連携を強化し進めていく。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	05	10	0980000	建築審査会運営費	1,000,000	1,006,540	1,101,000
2	01	40	05	10	0982000	建設リサイクル事務費	28,000	27,074	28,000
3	01	40	05	10	0987000	負担金 全国建築審査会協議会	48,000	48,000	48,000
4	01	40	05	10	0991000	建築物除却事業費 除却工事費	1,000	0	
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							1,077,000	1,081,614	1,177,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	建築指導事務			事務事業コード	40610200
概要	建築物の長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し環境に配慮したまちづくりを推進する。				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 建築指導課
	施策	61	質の高い建築物の確保	事業類型	法定事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成7年度～	見直しの裁量
根拠法令等	長期優良住宅の普及の促進に関する法律、都市の低炭素化の促進に関する法律、エネルギーの使用の合理化に関する法律他				
市関連事業	府中市環境基本計画				
対象	市内の建築物、工作物等				
実施の背景	震災後のエネルギー需要の変化及び市民のエネルギー・地球温暖化に関する意識高揚を踏まえ、環境にやさしいまちづくりが求められている。				
事業目標	長寿命化、低炭素化、省エネルギー化に配慮した建築物を誘導するため、市民との協働により、快適で質の高い建築計画及びまちづくりへの実現を目指す。				
事業内容	長寿命化及び、低炭素化、省エネルギー化に配慮した建築物を誘導するため、他の行政庁との連携を強化するとともに、まちづくりと連携した認定制度等の活用を推進し、民間の建築にあつては、長期優良住宅等の認定率の向上を図る。				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽近隣行政庁及び指定確認検査機関との連絡会にて、連携、情報交換会等を行い、更なる建築確認等の事務の正確性及び効率化を図った。 ▽長寿命化や省エネルギー化、低炭素化に配慮した建築物を推進するためその内容等について、市民等へ啓発を図った。	▽市民のエネルギー、地球温暖化に関する意識高揚等を踏まえ、建築物に長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し環境に配慮したまちづくりを推進した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
▽近隣行政庁及び指定確認検査機関との連絡会にて、連携、情報交換会等を行い、更なる建築確認等の事務の正確性及び効率化を図る。 ▽長寿命化や省エネルギー化、低炭素化に配慮した建築物を推進するためその内容等について、市民等へ啓発を図っていく。	▽市民のエネルギー、地球温暖化に関する意識高揚等を踏まえ、建築物に長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し環境に配慮したまちづくりを推進していく。

H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
▽近隣行政庁及び指定確認検査機関との連絡会にて、連携、情報交換会等を行い、更なる建築確認等の事務の正確性及び効率化を図った。 ▽長寿命化や省エネルギー化、低炭素化に配慮した建築物を推進するためその内容等について、市民等へ啓発を図った。	▽市民のエネルギー、地球温暖化に関する意識高揚等を踏まえ、建築物に長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し環境に配慮したまちづくりを推進した。	



新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R2年度の具体的な取組 (Plan)	R2年度の方向性 (Plan)
▽近隣行政庁及び指定確認検査機関との連絡会にて、連携、情報交換会等を行い、更なる建築確認等の事務の正確性及び効率化を図る。 ▽長寿命化や省エネルギー化、低炭素化に配慮した建築物を推進するためその内容等について、市民等へ啓発を図っていく。	▽市民のエネルギー、地球温暖化に関する意識高揚等を踏まえ、建築物に長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し環境に配慮したまちづくりを推進していく。

令和3年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	建築確認の事務の正確性及び効率化並びに長寿命化や省エネルギー化など環境に配慮したまちづくりの取組みなどについては、今後も継続して行う必要があり大幅な見直しは行わない。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
長期優良住宅認定率	21.6	計画 当初値	25	30	35	40	平成31年度の認定率は、平成30年度に比べ微増傾向にある。今後もより一層長期優良住宅の認定率の促進に努める必要がある。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	%	実績	17.1	18.1	-	-	
	-	計画 当初値	-	-	-	-	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	3
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	3
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	6,068,000	6,803,000	6,764,000	10,729,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	103,000	92,000	98,000	3,611,000	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	4,158,000	5,632,000	5,678,000	5,383,000	0	0
一般財源	1,807,000	1,079,000	988,000	1,735,000	0	0
予算現額	6,070,000	7,025,000	6,737,000	0	0	0
決算額	5,788,352	6,728,420	6,351,033	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	105,615	106,255	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	5,682,737	4,890,773	0	0	0	0
一般財源	0	1,731,392	6,351,033	0	0	0
執行率	95.4%	95.8%	94.3%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	4.75	4.75	4.75			
職員人件費	36,487,714	37,354,128	38,151,786			
嘱託員数	0.5	2	1			
嘱託員人件費	1,560,200	6,251,772	3,090,923			
(間接経費)						
間接経費	396,102	439,198	312,423			
総コスト	44,232,368	50,773,518	47,906,165	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

<p>これまでの主な取組と成果</p> <p>震災後のエネルギー需要の変化及び市民のエネルギー・地球温暖化に関する意識高揚等を踏まえ、建築物の長寿命化や省エネルギー化、低炭素化を促進し、環境に配慮したまちづくりを推進してきた。</p>
<p>今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）</p> <p>長寿命化や省エネルギー化、低炭素化に配慮した建築物を誘導するため、市民との協働による快適な質の高いまちづくりへの実現を目指していく。</p>

6 構成事業一覧

(単位：円)

	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	05	10	0981000	建築指導事務費	6,664,000	6,251,033	6,523,000
2	01	40	05	10	0988000	負担金 日本建築行政会議	100,000	100,000	100,000
3	01	40	05	10	0991100	管理用車両購入費			4,106,000
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							6,764,000	6,351,033	10,729,000

事務事業評価シート

記載年月	令和2年9月
対象年度	平成31年度

1 事務事業の概要

事務事業名	景観施策推進事業			事務事業コード	40620100
概要	府中市景観計画に基づき良好な景観形成を推進する				
総合計画	基本施策	1	計画的なまちづくりの推進	主管部課名	都市整備部 計画課
	施策	62	魅力ある景観の形成	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	平成10年度～	見直しの裁量
根拠法令等	景観法、府中市景観条例				
市関連事業	土地利用調整審査会運営事業、開発誘導事業				
対象	市民・事業者				
実施の背景	平成20年に景観法に基づく景観行政団体となり、景観条例、景観計画により良好な景観形成を推進する。				
事業目標	市民が愛着を持つ魅力ある緑豊かな景観形成を実現する。				
事業内容	景観計画、景観ガイドラインの見直し、検討 景観まちづくり学習の実施 けやき並木景観形成方針の検討 景観賞の実施				

2 事業計画・評価

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
景観計画の見直し検討 府中市土地利用景観調整審査会の開催 (景観) けやきフェスタで景観啓発、出前講座 (景観まちづくり) 景観賞につながるけやき並木のライトアップ事業に協力	事業者と協議、指導を行い、良好な景観形成を誘導するとともに、市民が愛着を持つような景観計画の改定準備を進めた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)	
景観計画の改定に向けてPDCAサイクルに基づき評価・検証 府中市土地利用景観調整審査会の開催 (景観) 8月に開催されるけやきフェスタで景観啓発 (アンケートの実施) 出前講座 (景観まちづくり)	事業者と協議、指導を行い、良好な景観形成を誘導する。また、景観計画の評価・検証を実施し、市民が愛着を持つ計画を目指し、改定作業を進める。	
H31年度実績 (Do)	H31年度評価 (Check)	評価内容 A 重点化・拡大して継続
・景観計画の改定に向けてPDCAサイクルに基づき評価・検証 ・けやきフェスタでの景観啓発 (アンケートの実施)	事業者と協議、指導を行い、良好な景観形成を誘導するとともに、景観計画の改定に向けて現行計画の評価を行った。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H31年度評価に基づく見直し (Action)

R 2年度の具体的な取組 (Plan)	R 2年度の方向性 (Plan)
・景観計画改定案の作成 ・公共サインの現地調査 ・府中市土地利用景観調整審査会の開催 (景観) ・イベントでの景観啓発 (アンケートの実施) ・出前講座 (景観まちづくり)	事業者と協議、指導を行い、良好な景観形成を誘導する。また、景観計画の改定案を作成する。

令和3年度における事業の位置付け			
A 重点化・拡大して継続	1 大幅な見直しは必要ない 2 見直しには法令等の改正が必須 3 見直しの必要性はあるが時期尚早 4 現状では見直しが不可能	A	
B 現状のまま継続			
C 見直して継続			引き続き良好な景観形成を誘導していくとともに、景観計画の改定作業を進めていく。また、令和2年度に実施する公共サインの在り方に関する調査の結果を踏まえ、今後の公共サイン整備の必要性を整理する。
D 休止・廃止等			

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
			H30年度	H31年度	R 2年度		
まちなみや景観がよく保全 されていると感じる市民の 割合	58.8	計 画 値 当 初 値	55.1	58.4	61.7	65	景観協定累計面積については、近年横ばいとなっているので、新たに締結できるよう努めていきたい。今後は、まちなみや景観がよく保全されていると感じる市民の割合が増加するよう、他の施策と連携した更なるPRを行う必要がある。
		補 正 値	-	-	-	-	
	%	実 績	48.4	46.9	-	-	
開発事業等における景観協 定累計面積	23.2	計 画 値 当 初 値	27	28	29	30	
		補 正 値	-	-	-	-	
	ha	実 績	25.8	25.8	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現 状 分 析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当 初 予 算 額	1,917,000	87,793,000	5,190,000	13,569,000	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	0	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	40,741,000	2,700,000	9,400,000	0	0
一 般 財 源	1,917,000	47,052,000	2,490,000	4,169,000	0	0
予 算 現 額	11,563,000	87,793,000	5,190,000	0	0	0
決 算 額	11,559,723	77,359,367	3,315,052	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都 支 出 金	2,630,000	0	0	0	0	0
市 債	0	0	0	0	0	0
そ の 他	4,535,000	21,551,000	2,700,000	0	0	0
一 般 財 源	4,394,723	55,808,367	615,052	0	0	0
執 行 率	100.0%	88.1%	63.9%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職 員 数	1.11	0.86	0.86			
職 員 人 件 費	8,508,876	6,728,112	6,871,784			
嘱 託 員 数	0	0	0			
嘱 託 員 人 件 費	0	0	0			
(間接経費)						
間 接 経 費	109,558	116,298	67,409			
総 コ ス ト	20,178,157	84,203,777	10,254,245	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
府中市景観条例の改正により、平成20年度から府中市景観計画に沿った良好な景観の誘導が可能となった。景観要素ごとのガイドラインの策定を進め、景観協定の認可を行った。 また、景観啓発のためのイベントや府中カレッジ出前講座で景観まちづくり学習を行った。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
引き続き、景観計画や景観要素ごとの運用の検討をする。 また、公共サインの現状調査の結果を踏まえ、市内の公共サインの再整備の必要性について検証を行う。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H31年度		R 2年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	05	1062100	公共サイン実態調査費			8,228,000
2	01	40	15	05	1066000	景観事業費	5,190,000	3,315,052	5,341,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							5,190,000	3,315,052	13,569,000